

第 3 回懇談会「議論のポイント」

1 議論のまとめ

項目 2 区民や地域との協働・協力に向けた事業展開

- (1) 図書館を核にして、地域住民と図書館、地域住民同士が連携していけるサポーターズ組織（友の会等）を設ける。
- (2) 病院や少年鑑別所など、これまで想定していなかったサービス対象へ図書館サービスを提供する。
- (3) 図書館に行きたくても行けない方々への利用支援を充実させる。
- (4) 講演会や活動の場として図書館を提供する。

項目 3 学校および子育て家庭への支援に向けた事業展開

- (1) 学校へ司書教諭や学校図書館司書などを配置し、専門性や役割分担を含めた人的措置を充実させる。
- (2) 学校図書館はもとより、区立図書館の利用方法を低年齢から身につけさせ、利用の促進を図る。
- (3) 子供達の足を区立図書館に向けさせる工夫を学校や学校図書館と連携して行う。

項目 4 図書館の資料や人材などを活用した事業展開

- (1) 時代の要請やニーズに合わせた運営を行い、誰もが気軽に図書館に行こう、利用しようという雰囲気を作り出す。
- (2) 「友の会」を有効に活用するためには、目的別にいくつも組織をつくり活動できることが望ましい。図書館は各種事業と「友の会」をマッチングし実施することが役割となる。
- (3) 様々なニーズに対応できる人材の発掘や育成も図書館の役割である。

2 議論のポイント

項目 2 区民や地域との協働・協力に向けた事業展開

- (1) 区民や地域との協働
- (2) 場の提供

項目 3 学校および子育て家庭への支援に向けた事業展開

- (1) 子育て中の家庭への支援
- (2) 保育園、幼稚園および児童館など区内児童関連施設への支援
- (3) 小中学校への学校支援事業の拡充
- (4) 青少年の読書活動への支援

項目4 図書館の資料や人材などを活用した事業展開

- (1) 資料や人材の活用
- (2) 図書館機能の充実

3 委員の主な意見

項目2 区民や地域との協働・協力に向けた事業展開

(1) 区民や地域との協働

- ・ 区内の大学との連携や協力体制を充実させる必要がある。
- ・ 友の会のイメージとして、他区の例によると 図書館サポーターズ組織：図書館に協力して事業実施や提案を行う。
- ・ 図書館を介して地域の方々が顔見知りになれるような、役立つ組織であれば良い。
- ・ 病院や鑑別所など、区内の施設へのサービス提供も積極的に行うべきだ。
- ・ 要望に即したサービスが提供できるよう、図書館側からの働きかけが必要だ。

(2) 場の提供

- ・ 自主的な講演会や組織づくりなどへ場を提供する。

項目3 学校および子育て家庭への支援に向けた事業展開

(1) 子育て中の家庭への支援

- ・ ブックスタート後に図書館利用を促進する工夫が必要である。
- ・ 保護者が子供を連れて遊びに来るようなイベントを開催する。
- ・ 図書館らしい企画が見えない、創意工夫の仕掛けが必要だ。
- ・ 子供優先の日（多少の音も OK）を設けて、子供も保護者も安心して本を選べるようにする。

(2) 保育園、幼稚園および児童館など区内児童関連施設への支援

- ・ 南大泉図書館分室の設置をきっかけとして、図書館空白地域に同様の施設を配置する。
- ・ 赤ちゃんから乳幼児、小学校低学年をつなぐ場が必要である。

(3) 小中学校への学校支援事業の拡充

- ・ 小中学校への学校図書館司書の配置を、報告書に記載することを要望する。（人的配置）
- ・ 司書教諭と学校図書館司書が連携することで学校図書館が活性化する。
- ・ 区立図書館と学校との連携で、子供達に利用教育を施す。
- ・ 学校図書館の資料管理を電算化し、区内学校のネットワーク化を図り資料の効果的、効率的な利用環境を構築する。

- ・ 学校図書館の運営については学校が責任を持ち、人的配置を有効に活用する。
- ・ 学校図書館を活性化するために人材の育成が必要であり、区立図書館がその援助を行う。
- ・ 定年退職後の有資格者なども協力への要望があるとする。

(4) 青少年の読書活動への支援

- ・ 子供達を区立図書館に足を向けさせる手だてを考える。
- ・ ボランティアが活動できるスペースを確保してほしい。
- ・ 多様な人材の確保が必要であり、育成も重要だ。
- ・ 学校図書館ではシリーズの初めの部分のみ購入し、続きは区立図書館でと案内する。(している。)
- ・ 中高生に図書館の新聞づくりやお勧め本の紹介などの事業に参加してもらう。
- ・ 学校図書館の「たより」や「案内」を区立図書館で紹介する。
- ・ 事業やイベントに参画できる機会を設ける。
- ・ 様々な業務がある中では、技術なども考慮し任せる部分を明確にして参画させることが必要だ。

項目 4 図書館の資料や人材などを活用した事業展開

(1) 資料や人材の活用（専門性の活用）

- ・ 民間委託や指定管理が増え、専門性が深められるとする。時代に即したフレキシブルな対応でサービスを提供していくべき
- ・ 様々なことに対応できる人材を配置した窓口が必要だ。
- ・ 専門家の充実が必要である。

(2) 図書館機能の充実

- ・ 図書館サービスの内容が周知されていない。便利帳を活用して広報する。
- ・ 図書館だより、図書館 HP で情報発信する。
- ・ 資料の予約件数が 23 区中トップの反面、所蔵資料数が少ない。資料数の充実が必要だ。
- ・ 館内の椅子不足、バリアフリーへの対応など、満足度調査をもとに 10 年後に目標を掲げ、実行していくことが必要だ。
- ・ 大人の居場所としての図書館を考えたい。

その他

- ・ 懇談会の継続を要望する。
- ・ 国立国会図書館が進めている資料のデジタル化により、サービスの向上を図ってほしい。
- ・ 疑問を解消してくれる窓口であってほしい。